

総会報告 社名変更に伴うシンボルマークも新たに次回60回記念大会を東京で開催

9月13日午後4時半より、蒲郡市民スポーツセンタ第4会議室にて役員総会を開催した。
定例の議題に加え、2025年7月から新しくなった社名及びシンボルマークに伴い社旗の購入が報告され、次回の60回記念大会では横断幕と立看板の新調のため、特別基金から支出することが報告された。
議事では、各支部からの部員の減少による活動の縮小化や休会が相次ぐ活動報告の現状を見据えて、今後の活発な全国大会活動に向けて更なる部員確保に取り組んでいく旨を申し合わせた。また、64回大会の主管は、ドコモ支部に依頼することが決定した。

【議事内容】

- (1)令和6年度の連盟活動報告
 - (2)令和6年度までの会計報告、会計監査報告
 - (3)令和7年度役員選出(敬称略)
 - (4)次年度活動計画
 - (5)令和7年度予算案および年会費
 - (6)第60回以降の大会主管
- 次回主管: データ・JIP支部
時期: 2026年10月～11月 場所: 東京都
以後の持ち回り予定:
61回関西、62回九州、63回東京 64回ドコモ



会場に掲げられた新シンボルマークの社旗



総会の様子

懇親会模様

前夜祭の懇親会では、恒例の支部ごとの翌日大会にける決意表明のほか全国のNTTグループ内の組織、地域、年代を越えた弓友同士の交流が繰り広げられた。



坂本会長の乾杯



主管の東海支部



小川副会長の
締めのご挨拶



各支部による決意表明

御礼

本大会の開催にあたり、(公財)全日本弓道連盟様およびNTTグループ内各社様(持株、東、西)からご後援を頂きました。

皆様のご厚情に感謝申し上げます

NTTグループ 弓道

令和7年10月11日発行
東京都調布市入間町1-44
NTTグループ弓道連盟
発行責任者 頼政秀幸
編集責任者 牧野佳
第七十三号

次回大会:
第60回NTTグループ全国弓道大会
主 管: データ・JIP支部
開催日: 未定
開催地: 未定

◆ 第59回NTTグループ全国弓道大会、愛知県蒲郡市民体育センタにて開催 ◆

第59回大会が東海支部主管により、初めて愛知県蒲郡市(蒲郡市民体育センタ)にて開催された。70名弱の選手が全国から集い、お天気に恵まれたものの猛暑の中、熱戦をくり広げた。

前夜祭となる懇親会は、開業98年を迎える歴史と格式を誇る由緒正しい蒲郡クラシックホテルの宴会場にて催され、毎年恒例の決意表明では各支部の新入部員の紹介や試合にける熱意が語られ、同時に支部の枠を超えた交流を通じて会員同士の絆が一層深まった。

開会式は、坂本秀治会長の挨拶、主管支部を代表して本多裕治支部長の歓迎の挨拶をいただき、昨年度優勝したデータ支部の林圭選手の力強い選手宣誓が行われた。続いて、主管支部を代表し、水野宜治練士五段による矢渡(介添: 山本勝弘・秋松泰史)が行われ、予選競技へと移った。

前回大会より変更された、個人戦を兼ねた3人制団体による各支部複数参加可能な団体戦を予選とし、予選を勝ち抜いた各支部団体計12チームによるトーナメント制による方法で行われた。

午前中には、個人戦の成績およびトーナメント進出をかけて、全選手が四ツ矢2回・計8射を行射。その結果、決勝トーナメントには、東京支部が善戦し、予選通過12チーム中3チームが駒を進めた。団体戦決勝トーナメントでは、ベテランで編成された東京支部Bチームが前回優勝のデータ支部、同支部である東京支部Aを下し、堂々の優勝を果たした。また、2位には東京A、3位には東京CとデータAが入賞し、東京支部が上位を独占した。

個人戦は、1部(3段以下)内田昇選手(ドコモ支部)が個人初優勝、2部(4、5段)林圭選手(データ支部)が二連覇を果たした。

3部(称号)は、本橋秀夫選手(東京支部)が通算3度目の優勝をした。

各部の個人優勝者同士で争う個人総合優勝は、射詰競射の結果、3部本橋秀夫選手が栄冠に輝き名越賞もあわせて獲得した。

大会結果 団体戦

団体戦は支部ごとの団体数無制限の3人制で執り行われた。競技方法は予選四ツ矢2回の上位12チームを通過(ただし各支部最高の中1チームを優先通過)とし、決勝では四ツ矢1回のトーナメント戦で勝敗を決する。

【予選】

各支部枠を除く残り3枠は、3、4位の的中と善戦した東京B、C、女性チームで編成されたドコモBが勝ち取った。

【1、2回戦】

<1ブロック> 前回3位入賞した中央が主管東海に6-4で勝利したが、前回優勝したデータAが6-3で勝ち進んだ。

<2ブロック> 1回戦北陸は九州に5-1と勝利するも2回戦ではシードを勝ち取った東京Bが5-3で勝利した。

<3ブロック> JIPvsドコモは1-5でドコモが勝利。2回戦では東京Cと5-5の後2度の競射にもつれ込む激戦の末、全員の小さな東京Cが3-0で準決勝進出を果たした。

<4ブロック> 関西は予選枠を勝ち取ったドコモに5-4と勝利するも、続く2回戦では予選1位通過の東京Aが6-3で勝利した。

【準決勝】

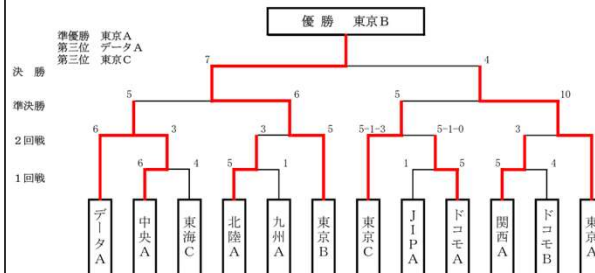
<第1試合: データA:5-東京B:6> 3本目を終えた時点では、データAが4中、東京Bが3中と、データAがリードする展開だった。しかし、ベテラン揃いの東京Bがここで底力を発揮。最終射で全員が留矢的中させ、見事な逆転劇を演じて決勝進出を果たした。これにより、データAの3位が確定した。

<第2試合: 東京C:5-東京A:10> 最初1手で5-4と高い中で競る展開に。しかし後の1手で東京Aがすべて詰め今大会最高の中である10中を出し勝利。関西の平岡選手との混成チームとなる東京Cの3位が決定した。

【決勝】

<東京B:7-東京A:4>

東京同士の戦いとなった決勝戦は、最初の1手では3-3とお互い譲らない展開に。準決勝で10中を出した東京Aだが、ここで失速。対する東京Bは安定した的中を出し続け7中で勝利。堂々の優勝を果たした。



団体戦 優勝 東京支部B

大会結果 個人戦 特別賞

午前中の団体戦と個人戦を兼ねた予選成績により、各部優勝者がそれぞれ確定した。
各部優勝者同士による、個人総合優勝決定の射詰競射では、一部初優勝の内田選手が、1回目で残念ながら失中し敗退する。二部二連覇を果たした林選手と3度目の優勝を飾った本橋選手との一騎打ちは3本目まで続く熱戦となったが、本橋選手がベテランの粘り強さを見せ、栄冠に輝いた。

個人の部	参段以下	優勝	57 内田 昇(ドコモ)	5中
		準優勝	53 牧野 勝美(東京)	4中遠近
		3位	9 樋泉 清人(東京)	4中遠近
		4位	67 後藤 嘉郎(ドコモ)	4中遠近
		5位	54 平岡 直樹(関西)	3中遠近
	四五段	優勝	6 林 圭(データ)	6中
		準優勝	19 榎本 周久(関西)	5中遠近
		3位	30 八木 恵美(ドコモ)	5中遠近
		4位	12 森 晴美(北陸)	5中遠近
		5位	4 肥田 健一郎(データ)	5中遠近
	称号	優勝	8 本橋 秀夫(東京)	6中
		準優勝	61 神代 真琴(ドコモ)	5中遠近
		3位	22 五十川 実千恵(中央)	5中遠近
		4位	34 富澤 明(東京)	5中遠近
		5位	50 阿内 秀人(ドコモ)	4中遠近
	総合優勝	8 本橋 秀夫(東京)	射詰〇〇〇	
特別賞	女子優秀賞	12 森 晴美(北陸)		
	名越賞	8 本橋 秀夫(東京)		



個人戦三部優勝 本橋選手
個人総合優勝・名越賞



女子優秀賞 森選手



個人戦一部優勝 内田選手



個人戦二部優勝 林選手



個人戦 各部入賞者

大会写真集



大会会長挨拶
(坂本会長)



主管支部代表挨拶
(本多支部長)



矢渡
(東海支部・水野錬士)



団体戦 準優勝 東京A



団体戦 第三位 データA



団体戦 第三位 東京C



講評・閉会挨拶
(松井副会長)